

## 【大学間協定留学】 留学報告書

記入日	2024年7月18日
明治大学の所属学部・研究科 ※学部・学科・研究科・専攻等	法学部法律学科国際関係法コース
留学(渡航)した時の学年	2年生
帰国年月日	2024年7月5日
明治大学卒業予定年月	2026年3月
留学先大学について	
留学先国	オーストラリア
留学先大学	西シドニー大学(日本語名) Western Sydney University(現地言語名)
現地使用言語/ 授業使用言語	英語/英語
留学期間	2024年3月～2024年7月
留学先大学で在籍した学年	1年生
留学先の所属学部等	<input type="checkbox"/> 特定の学部・研究科等に所属している(以下に学部等名を記入) ※学部等名 日本語名: 現地言語での名称:  <input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部等に所属せず様々な学部等の授業を履修している <input type="checkbox"/> その他:
形態	<input type="checkbox"/> 国立 <input checked="" type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他:
学年暦 ※記入例: 1 学期: 4月上旬～7月下旬 2 学期: 9月中旬～2月上旬	1 学期: 3月4日～6月30日 2 学期: 7月5日～10月17日 3 学期: ~ 4 学期: ~
学生数	49,200人
創立年	1989年

## 留学費用

留学費用項目	現地通貨 (オーストラリアドル)	日本円	備考
授業料	0	0 円	印刷費含む
宿舍費	6337.9AU\$	680,944 円	敷金 956.60AU\$含む
食費	2,973AU\$	319,420 円	自炊
図書費	502.54AU\$	53,993 円	教科書、参考書、旅行本
学用品費	125.2AU\$	13,452 円	電卓、シャーペンの芯、消しゴム
携帯・インターネット費	234AU\$	25,141 円	SIM カード、1 か月ごとに通信料支払い
現地交通費	0	0 円	徒歩 (☑大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費	219AU\$	23,530 円	ランニングシューズ、国際郵便、腕時計
被服費	412AU\$	44,266 円	寮のコインランドリー
医療費	0	0 円	市販薬とハンドクリームを持ち込んだ
保険費	884.6AU\$	94,983 円	形態: 明治大学の保険と留学先の保険
渡航旅費	1,748.14AU\$	187,820 円	カンタス航空
ビザ申請費	719.94AU\$	77,351 円	学生ビザ
雑費	562.5AU\$	60,458 円	お土産、食器、寝具
その他	3895.88AU\$	418,574 円	旅行費、全体の交通費
その他	139AU\$	14,935 円	床屋代
合計	18,891.2AU\$	2,014,867 円	the 2024 Destination Australia Cheung Kong Exchange Program Scholarship の 6,000AU\$を 5 月に振り込まれた。 1AU\$=107.48 円で、日本円は全て切り上げ。

## 渡航関連

渡航経路
<b>往路 出発地:</b> 羽田空港 <b>目的地:</b> シドニー空港 <b>経由地:</b> <b>復路 出発地:</b> シドニー空港 <b>目的地:</b> 羽田空港 <b>経由地:</b>
渡航費用
① 往復チケットを購入した場合 航空会社:カンタス航空  料金:187,820 円  ② 片道ずつチケットを購入した場合 往路 航空会社:            料金:  復路 航空会社:           料金:                            ∴合計:
航空券購入方法
<input type="checkbox"/> 旅行代理店(店名:        ) <input checked="" type="checkbox"/> インターネット(サイト名:カンタス航空) <input type="checkbox"/> その他(            )
滞在形態関連
1) 種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舍等)
<input checked="" type="checkbox"/> 学生寮(寮の名前:Western Sydney Accommodation) <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ
2) 部屋の形態
<input type="checkbox"/> 個室 <input checked="" type="checkbox"/> 相部屋(同居人数 2 人。最初の 1 か月のみ 3 人)
3) 共有部分
<input type="checkbox"/> バス <input type="checkbox"/> トイレ <input checked="" type="checkbox"/> キッチン( <input checked="" type="checkbox"/> 自炊可 <input type="checkbox"/> 自炊不可)
4) 住居を探した方法:
大学のホームページ( <a href="https://www.westernsydney.edu.au/accommodation">https://www.westernsydney.edu.au/accommodation</a> )
5) 感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)
<p>キャンベルタウンの寮は 1 人部屋、3 人部屋、5 人部屋の中から選ぶことができました。1 人部屋は賃料が高く、大人数の部屋では、1 学期しか滞在しない自分は仲間外れにされるかもしれないと思い、3 人部屋を選びました。この部屋を選んでよかったと思うことは 3 つあり、この部屋を選んで苦労したことも 1 つあります。</p> <p>まず、大学内の寮を選んでよかったと思うことは、寮の共有棟で行われるイベントが多くあることです。学期が始まる 3 月の直前だけでなく、学期中もイベントがあります。僕は夕食のイベントにルームメイトと一緒に 5 回、海の絵を描くというイベントに 1 人で 1 回参加しました。3 人部屋を選んでよかったと思うことは、他国からの留学生と仲良くなれることです。3 人部屋に 2 人で住んでいたのが疎外感を感じることなく、2 人で旅行に行くこともありました。</p> <p>しかし、2 人しかおらず、ルームメイトは 5 歳も年上だったので、強引に遊びに誘われることもありました。ルームメイトは 2 学期制の僕と違い、4 学期制だったので、試験期間も異なり、試験前に遊びに誘われると断るのが大変でした。</p> <p>試験前に遊びに行くのをあきらめてくれないことを寮のスタッフさんに相談すると、土日の夜中だったにもかかわらず、応急措置として、新しい部屋を即日用意してくれました。</p> <p>今後留学する人には大人数部屋の寮を勧めます。大人数なら 1 人と関係が悪くなくても比較的、問題ないので。</p>

## 現地情報

1) 留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。

(例: 現地の病院、学内の診療所)

なし

あり (治療を受けた場所: )

2) 留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。

(例: 留学先大学の相談窓口、現地の友人等)

なし

あり (問題の内容や相談した人等: 交換留学を担当している留学先大学の職員さん、寮のスタッフさん)

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

シドニーの都市部で持ち帰りのお寿司屋さんで並んでいるとき、2人のホームレスに挟まれて、「5ドルくれ」、「この5ドルの商品を買ってくれ」と、英語で声を掛けられ続けました。無視して顔も向けずに買い物が続けたら離れました。

4) 携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。

(例: 寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェではWiFi接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

寮のインターネットは大学内で使うwi-fiと同じもので、快適に使えました。ただ、留学中に2回ほど共有棟からしかwi-fiのつながらない夜があり、スマホの電波をノートパソコンにつないで勉強していました。

5) 現地での資金調達はどのように行いましたか?

(例: 現地に銀行口座を開けて日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

留学先大学から配られた留学生用のガイドブックに銀行の開設の仕方も書いてあり、数時間でできた。日本の親の銀行から引き落とされる、自分名義のクレジットカードを使い、現地の銀行に奨学金が振り込まれてからはその口座から引き出した現金を使っていた。

6) 現地では調達できない日本から持っていきべき物があれば教えて下さい。

入国することになる2月、オーストラリアでは夏なので、持ち込んだ日傘が便利だった。日本以上に日差しが強いが、日傘は日本ほど流通していないため。ルームメイトと話すきっかけになる日本のスナック菓子もおすすめです。

7) 【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。

(例: 渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)



## 学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入)

1) 留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
40 単位	<input checked="" type="checkbox"/> 10 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由: )
2) 履修登録の時期・方法及び履修制限	
<input checked="" type="checkbox"/> 出発前 <input type="checkbox"/> 出発後 <input type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input checked="" type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他( ) <input checked="" type="checkbox"/> 履修の制限があった: 数学、医学、2 年以降の授業は履修できなかった。	
3) 以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人々たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Enterprise Innovation and Markets	企業のイノベーションと市場
科目設置学部・研究科	School of Business
履修期間	秋学期
単位数	10
本学での単位認定状況	2 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	チュートリアル形式 (チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 120 分が 1 回
担当教授	Yasmin, Sabina
授業内容	<p>Enterprise Innovation and Markets, Francine Garlin, et al. という教科書の内容を半年かけて学ぶ。各授業で 1 章分を学ぶ。教科書はオンラインの本しか見つけられなかった。</p> <p>2 時間のチュートリアルの前に合計で 2 時間ほどの動画が配信され、予習として教科書を読んだ後に視聴するように指示された。</p> <p>チュートリアルでは、配信された内容を先生がまとめてパワーポイントで話す。30 人くらいの学生が 5 人ずつくらいでまとまって丸テーブルに座って授業を受ける。授業の終わりにグループワークがあり、10 分くらい各テーブルで話し合い、それを授業の最後に発表していく。</p> <p>授業で学んだことは、オーストラリアの市場は少数独占市場の典型であるということ。そして、起業の方法にはスタートアップやフランチャイズの店舗のオーナーになるなどの方法があるということ。</p>
試験・課題等	<p>①選択式の 30 問のテストをオンラインで好きな時間にやる小テストが 2 回(30%)。</p> <p>②6 人でグループを作り、オーストラリアの実際の商品について 3,500 字のレポートを作る。合作のレポートだけでなく、メンバー同士が互いの活躍を評価したのもも点数になる(30%)。</p> <p>③オンライン、持ち込み禁止の期末試験。2 時間で 4 問の問題に長文で解答する(40%)。</p>
感想を自由記入	<p>この授業の特徴はグループワークだった。6 人のメンバーを自分たちで探さないといけない上、グループワークの評価が 30%もあるので、万が一グループワークが 0 点だった場合、単位習得が難しくなる。</p> <p>しかし、海外留学と言ったらグループワークはつきものな気がするので、この授業を履修できてよかった。グループにはネイティブスピーカーしかいなかったけれど、自分からメンバーに声をかけていたら、一番簡単な部分を任せてもらった。留学先の法学部生はビジネスもダブルメジャーとして専攻にしていることが多く、法律の授業のクラスメイトもいた。ただし、仲の良い学生同士で集まっているので、先生の話をお聞きしなくてもおしゃべりしている生徒も多かった。</p>

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Principles of Economics	経済学の原理
科目設置学部・研究科	School of Business
履修期間	秋学期
単位数	10
本学での単位認定状況	2 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	チュートリアル形式(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 120 分が 1 回
担当教授	Hossain, Mohammad Toammel
授業内容	<p>Principles of Economics, John Sloman, et al. という教科書を半年かけて学ぶ。1 つ目の履修科目同様、チュートリアルの前に教科書の読書と予習動画の視聴が求められる。この教科書はオンライン書店で紙の教科書を注文できた。</p> <p>チュートリアルは 20 人くらいの生徒が 1 人 1 つの机に座る高校の授業に似た形式だった。市場の需要供給のグラフを 1 人 1 人が先生と他の学生の前でホワイトボードに書くことや、学生 1 人 1 人の意見を先生が聞くことがあった。</p> <p>チュートリアル後の復習として、教科書の各章の末尾にある選択問題の解答が公開されていて、それと似たような問題がポートフォリオに出題された。</p> <p>授業で学んだことは、経済学は選択のコストを考える学問であるということ。機会費用は選択した結果、選ばれなかった選択のこと。</p>
試験・課題等	<p>①選択式の 20 問のテストをオンラインで好きな時間にやる小テストが 4 回(20%)。</p> <p>②選択式の 10 問のテストをオンラインで好きな時間にやるポートフォリオが週 1 回(10%)。</p> <p>③4 問の大設問に合計 1000 文字で答えるレポート。オーストラリアの失業率の変化等のデータを調べ、グラフにすることも求められる(20%)。</p> <p>④オンライン、持ち込みがメモ用紙と電卓のみの期末試験。135 分で 10 問に選択で、3 問に長文で解答する(50%)。</p>
感想を自由記入	<p>僕が履修した授業の中では一番簡単な授業でした。上記の別の授業の内容と被る部分もありましたし、教科書に載ってる問題を解けるようにしたらポートフォリオも 9 割以上とれました。</p> <p>先生がとても優しく印象的でした。先生は留学生として西シドニー大学で学んだ人で、僕が質問の内容がわからないと言うと、別の聞き方をしてくれました。日本とオーストラリアの関係も重視している先生で、「日本の自動車産業について、簡単に説明してみても」と質問されることや、日本の GDP が世界 3 位であることを答えるように言われました。このうち、日本の GDP が世界何位かは間違えて答えてしまい、日本の一般知識をもっと勉強してから留学すればよかったと思いました。クラス全体にも、今の中国の首相の名前やオーストラリアの社会問題を質問していた。質問に答えられるように、僕はオーストラリアの新聞である ABCnews を読んでいました。日本からでも無料で読めます。</p> <p>チュートリアルで教えてくれる先生は、この科目全体を監督している先生とは違うので、期末試験の直前の ZOOM での質疑応答では初めて会う先生が質問に答えてくれました。</p> <p>オンラインテストは oh-meiji のように大学の専用のホームページで行われますが、Gardian というブラウザを用い、ウェブカメラで監督されました。Crome で西シドニー大学のホームページを開いてと言われ、僕はノートパソコンでの Crome の開き方がわからず焦りましたが、正直にそう伝えると、edge でもいいと言ってくれ、試験は問題なく終わられました。</p> <p>ただ、他の授業は 6 割の出席、法律の授業は 9 割が出席が義務付けられてたのにこの授業は出席をとっていなかったの、最初 20 人くらいいたクラスメイトが最後の授業は 10 人しかいなかった。</p>



履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Fundamentals of Australian Law	オーストラリア法の基礎
科目設置学部・研究科	School of Law
履修期間	秋学期
単位数	10
本学での単位認定状況	4 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	チュートリアル形式(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 120 分が 2 回
担当教授	Bhat, Suhail
授業内容	<p>オーストラリアの法源や判例の読み方、法律の種類を学ぶ。週に 2 回授業があるが、教室が違うだけで、授業の流れは同じ。授業の 2 週間前くらいに約 20 問の法律についての質問が配信され、教科書や配信された動画を見てそれらの解答を準備する。オーストラリアの立法の流れや法律用語の説明など、問題の内容は様々。授業ではそれらの解答を先生が学生に聞いて、確認していく。</p> <p>授業では、解答と解説の他に、ペアワークで新聞を読んだり、互いの解答を確認することもあった。</p> <p>最後の第 14 週では法律の専門家としてどのような職を目指すのかのワークショップを行った。</p> <p>授業のほかに、PASS と呼ばれる自主的な勉強会があった。PASS とは西シドニー大学のいくつかの授業にある勉強会で、この授業のほかに、上記の企業のイノベーションと市場の授業にあった。PASS では数年前にその授業を修得した先輩がワークショップを準備してくれる。この授業の PASS はオンラインで週 1 回、1 時間行われ、同じ授業を履修する、別のクラスの学生と会えた。</p>
試験・課題等	<p>①第 2 週目の授業中に 45 分の時間をとって行われる Writing。学生の英語の能力をはかる。補習が必要だと判断されると、第 7 週の大学の休み期間中に補習を 6 時間受けなければいけない。私は能力が足りないと判断され、受けた。成績には直接関係はないが、必要な補習を受けなければ履修したとはみなされない。</p> <p>②選択式の 20 問のテストをオンラインで週末の決まった時間にやる小テストが 4 回。4 回のうち、点数の良い 3 回のテストが成績に反映される(30%)。</p> <p>③判例の要約の作成。週末の決まった 2 時間の間に判例を読み、指定された表を Writing で埋めていく。判例の言葉をそのままコピーアンドペーストすると点数が低い(30%)。</p> <p>④オンラインの期末試験。24 時間の試験時間があり、事例問題に対して「あなたなら当事者たちにどのようにアドバイスするか」と問われる。2500 字の解答を作る。条文解釈の課題で、どの法律を解釈するのかが前もって教えられる。私の場合は公衆衛生法と、コロナ禍に施行された公衆衛生規則だった(40%)。</p> <p>西シドニー大学は 50%以上の全体の成績と 60%の出席で単位の修得ができたが、この法律の授業は期末試験 50%かつ全体の成績 50%、そして 9 割の出席が単位修得のために必要だった。そして、どれも個人ワークだった。</p>
感想を自由記入	<p>オーストラリアへの留学中、一番力を入れようと思っていた授業で、一番受けてよかったと思う授業でもあります。週 2 回、それぞれ 2 時間の授業がある授業はこれだけで、その分 2 つ授業を受けるくらいの準備が必要ですが、一番知識がつかえました。</p> <p>僕が法学部で、2 年生の時に国際法と比較法学で英米法を少し知っていたこともあり、知っている英単語が多く使われて、一番ついていけると思った授業でもあります。法学部の 1 年生全体にはインドや南アメリカからの留学生もいるものの、僕のクラスでは、留学生は僕を含めて 2 人だけでした。ですが、日本は条約を法源とするのかと聞かれたり、条文解釈の時に英単語のイメージを聞かれることがあり、ネイティブでないからこそ授業に貢献できることもあったと感じました。</p> <p>しかし、1 年生が必修の刑法の授業を取らなかったで刑法の例が出ると理解するのに苦労しました。現地の 1 年生の履修をもっと調べるべきだったと後悔しています。</p>

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Population Health and Society	公衆衛生と社会
科目設置学部・研究科	School of Health Sciences
履修期間	秋学期
単位数	10
本学での単位認定状況	2 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	ZOOM での講義と対面でのチュートリアル(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 60 分が 2 回
担当教授	El Masri, Aymen(チュートリアル、講義)、Klupp, Nerida(講義)
授業内容	<p>火曜に ZOOM での講義、その後に対面でのチュートリアルのクラスを自分で選んで受ける。ZOOM は 400 人以上いる受講生と一緒に受けるが、対面のチュートリアルは他の科目同様、20 人くらいで受講する。ZOOM は録画され、次の日には自由に視聴することができる。</p> <p>チュートリアルは先生が話すことは少なく、講義の内容に関して、先生が質問したり、論文をグループで読んでみる時間が多い。私のチュートリアルの先生はクイズが好きで、その先生が担当する講義やチュートリアルでは毎回 Menti というブラウザアプリで知識の確認テストがされた上、第 7 週と第 14 週のチュートリアルでは 2 グループ対抗の早押しクイズを 1 時間かけてやった。</p> <p>ストレスや糖尿病、コロナウイルスのような感染症など、幅広い分野を勉強する。教科書は指定されているが、使わなかった。テストでも授業でも配布されたパワーポイントのスライドが使いやすかった。</p>
試験・課題等	<p>①エッセイ。第 6 週目にオーストラリアで流行している病気についての作文を 600 字で書く(25%)。</p> <p>②レポート。第 12 週目にオーストラリアで流行している病気についての事例を選び、それへの公営、私営のサービスを調べて 1000 字のレポートを書く。4 つ事例問題があり、私は英語を話せない難民の子供がかかりうる病気はなにかという事例を選んだ(35%)。</p> <p>③期末試験。オンライン、持ち込みありの 2 時間の試験。60 問の選択式の問題。内容は授業で取り上げたものが中心(40%)。</p>
感想を自由記入	<p>この授業を選んだのはオーストラリアがコロナ禍に都市のロックダウンを早く行うような、医学に強い国という印象があったからです。もちろん医学部の学生がラボで受けるような授業は受講できませんでしたが、この授業はとることができました。</p> <p>受講している学生が特に多く、そのおかげで期末試験は採点が早い選択式のテストだったのは気が楽でした。しかしその分通常の課題が 2 つとも時間のかかるライティングでした。Google scholar を使って作文のテーマとなる病気のオーストラリアでの現状が書かれた論文を調べるのが大変だった。</p> <p>上記の法律の授業でも書きましたが、自分が少しでも勉強してきた刑法の授業を選んでおけばよかったと何度も思いました。しかし、その場合、キャンベルタウンキャンパスの寮から別のキャンパスに登校するしかありませんでした。この授業は半分がオンラインのため気が楽である上、チュートリアルで同じグループになったお姉さんが明るく、親切にしてくれました。期末試験も、受けた授業の中では一番楽だった上、法律の期末試験が偶然公衆衛生法についてでした。なので、留学が終わった今は、履修選択は間違えてしまったかと思いますが、受講できてよかったと思う授業になりました。</p> <p>2 回あるライティングの課題には添削がつくので、日本の参考文献の書き方とは文献の羅列の順番から違うことを、他の科目のライティングの前に知れたのもよかったです。</p>



## 卒業後の進路について

1) 進路 ※3 年生以下の方は今後の予定を記載してください。(下記 2 以降は記入不要)

就職 進学 未定 その他:

1) 進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関等

大学 1 年生の頃から、1 か月 1 時間の時間を進路について調べることに充てるようにしていました。これは授業で外部から来た講師さんが勧めていたからです。留学が将来にどう役立つのか、図書館にある「新移民時代：外国人労働者と共に生きる社会へ」などの本も読んでいました。

3) 就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません。就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。

4) 就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。

(例：留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。)

就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。

就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。

僕は 3 年生の春学期に留学することができました。なので明治大学の就職キャリア支援センター等が主催する就職活動を始めるための説明会にオンラインで参加することができましたし、3 年生夏のインターンにも参加できるよう、7 月の初めには帰国できるよう、航空券を手配しました。それでも、他の学生よりインターンに参加できる数は少ないだろうと思っていたので、2 年生の夏にインターンに参加しました。

しかし、西シドニー大学の場合、7 月の初めに帰国すると、期末試験終了後すぐに帰国することになり、留学先での滞在期間は少なくなります。留学先でボランティアやアルバイトをしたい場合、1 年間の留学にしたり、期末試験後も帰国せずにいることが必要になると思います。現地の学生や他の留学生はアルバイトをしている学生もいたものの、授業期間中に働く余裕は僕にはなかったのです。なお、西シドニー大学には学生のアルバイト先を紹介してくれるサービスがあります。

5) 進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

まだ入試の勉強を始めたばかりですが、一橋大学法科大学院、明治大学法科大学院、中央大学法科大学院のいずれかの一般受験で既修者コースに入りたいと思っています。

6) 進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。

留学をすると友達に話した時、司法試験を目指して法学部生がオーストラリアに行って何か意味があるのかと疑問に思われました。入りたかったゼミの先生には 3 年生の最初の学期に参加できないなら別のゼミに行ってくれと秋学期からの参加を断られたこともありました。僕は、最後には法科大学院のことも教えてくれる先生のゼミに入ることができましたが、進学を目指す場合、ゼミで論文の演習ができるかどうかとも重要になると思います。なので、入るゼミを選ぶときは留学を認めてくれる上で、自分の入りたいゼミに入れるように、情報収集をするべきだと思います。僕はできませんでしたが、長期留学をした先輩に連絡をとり、どのゼミに入ったかを聞くのが一番楽だと思います。

一見、留学をすることは大学院を目指すうえでは遠回りだと思われる。実際、法学部では 1 学期でも留学してしまうと早期卒業は履修選択の都合上できませんし、家族にも負担をかけます。ですが、学生のうちに留学することはかけがえのない経験になります。

もちろん就職した後に海外勤務することや、企業からの支援のもと海外の大学で勉強することはできます。夏休みに 1 か月間の中期留学をする方法もあります。ですがそれらの場合すでに進路が定まっていたり、現地に慣れたと思った時には帰国することになるかもしれません。

僕は大学院に進みたいと思ってはいたものの、本当に進めるのかと不安に思いながら留学期間を過ごしました。留学期間中に悩み、進路を変えることができる上、外国の大学の正規の学生と同じプログラムを受けることができる。これが学生のうちに長期留学をする利点だと思います。僕は半年悩んでやはり法律家を目指そうと決心できました。

僕は GPA が足りず、法曹コースから大学院へ、一貫コースとして入学することはあきらめてしまいました。仮にもう一度 1 年生からやり直せるのなら、GPA をもっと気にして、帰国後の大学院入試の負担を減らせる 3.0 以上の GPA を維持できるように努力したと思います。

7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

## 留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。

(例: 語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先の確保、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等)

留学開始年の 前年	1月～3月	タイのシーナカリンウィロード大学に1週間の短期留学
	4月～7月	IELTS 受験、明治大学にスコア提出
	8月～9月	西シドニー大学への入学手続き
	10月～12月	西シドニー大学の履修登録、3年生からの明治大学のゼミの選考
留学開始年	1月～3月	オーストラリアへ渡航
	4月～7月	西シドニー大学での授業、期末試験、日本への帰国
	8月～9月	TOEIC 受験予定
	10月～12月	法科大学院の受験勉強予定
留学/帰国年	1月～3月	法科大学院の受験勉強予定
	4月～7月	予備試験受験予定
	8月～9月	法科大学院受験予定
	10月～12月	法科大学院受験予定



## 留学体験記

※ この留学先を選んだ理由、留学生活全般について、また、これから留学を志す後輩学生へのアドバイス等、自由に記入してください。

僕は高校生のときから海外経験をしてみたいと思っていました。コロナウイルスの流行により、高校 2 年生で予定されていた海外研修が中止になってしまったからです。高校 1 年生の間していた準備が無駄になるとは思っていませんでした。多くの留学先の中からオーストラリアを選んだのは、自信のある外国語が英語だけだったからです。オーストラリアの自然に興味があったのも理由の 1 つでした。カラフルな鳥が野生で多く生きていて、特殊な進化をしたのだと思いました。

英語さえできれば多くの留学先がありますが、英語圏以外に留学すると、周りは現地の言葉話します。僕は憶病で、周りが何を話しているかわからないと、とても不安に思ってしまう。加えて、僕はずっと実家暮らしで、環境が変わることも苦手だったので、少しでも気が楽な留学先として、オーストラリアを選びました。実際、オーストラリアは日本と時差が短く、日本以上に清潔な国で、オーストラリア以上に快適な留学先はないと留学中に実感しました。しかし、上記で述べた通り、法学部生がオーストラリアに留学することに疑問を持つ人もいますので、ドイツ語等の第二外国語に自信があれば、その言語が中心の国への留学を目指すことをお勧めします。特に、中国語は、オーストラリアの留学生で一番多いのが中国人であるため、もし中国語圏に行かないとしても、役立つ機会が多いと思います。

オーストラリアで法律などの堅い学問を学んだことで得をしたと思うこともあります。授業内容で述べた通り、西シドニー大学はほとんどの授業でグループワークがありました。しかし、法律や経済の科目は、授業時間以外はリーディングが主な勉強方法でした。僕は英語の 4 技能のうちリーディングが一番得意だったので、これらの科目は自分に合っていました。他の学生が法律の授業の勉強会でシドニーの観光について教えてくれることもあり、シドニーで街を挙げて行われるイルミネーションのイベントであるビビッドシドニーの存在を知り、行くことができました。このビビッドシドニーは 5 月下旬から 6 月中旬にかけて行われるので、交換留学をしなければ訪れるのは難しく、いけてよかったと思いました。

留学生活で困ったことの多くは僕が海外に慣れていなかったため起きたことが多かった。まず、寮での滞在 1 日目から部屋のコンセントが使えなくなりました。これは日本以外で使ってはいけないアイロンを使おうとしたためでした。アイロンをコンセントにつなげた瞬間「バン」と音がしてアイロンから焦げたようなにおいがして、それまでパソコンの充電をしていたコンセントが、コードをつなげても充電されなくなりました。賠償を求められるかもと怖くなりましたが、ルームメイトの部屋は問題なく、2 日後には直りました。寮のスタッフさんは何もしていないと言っていて、なぜ直ったかは結局わかりませんでした。しかし、取扱説明書にしっかり日本でしか使えないことが明記してあり、留学でテンションが上がってしまい、当たり前で注意ができていないと感じました。2 日後に勝手に直ったからよいものの、もしホームステイ先や 1 人暮らしの時に同じことをしていたら、即日修理を手配していたかもしれず、寮の生活でよかったと思いました。アイロンは後にルームメイトと折半して 20 ドルのものを買ったので、日本から持参する必要はなかったと今思っています。

留学を経験して思ったのは、日本がとても生活しやすい国だということです。とりわけ勉強するうえで日本は恵まれていると改めて思いました。明治大学には大学内に教科書が買える書店がありますが、西シドニー大学にはありません。ルームメイトが学部生として過ごしたオーストラリア国立大学にはあったのでどの大学もというわけではありませんが、教科書を買うにはオンラインで注文し、寮に配達してもらう必要がありました。そもそも紙の教科書を持っている学生が限られていると感じました。ノートを紙でとる学生も少なかったです。

これから留学を目指す学生には留学をすることをあきらめないでほしいです。確かに海外でしかできないことは少ないです。例えば国際交流は日本にいても、特に日本に滞在する留学生と十分にできますし、外国語を学ぶのも語学研修をせずとも日本の語学教室でできます。僕が留学をする目的であった多文化主義の社会を知ることも、多くの本があるので日本で学ぶことができます。しかし、留学では、これらの目標がより達成しやすくなります。僕の受講したビジネスの授業では現地の学生と協力してレポートを合作することが必須です。英語を必死で勉強しなければ授業についていどころか生活することもできませんでした。オーストラリア法の基礎を学ぶ授業では多文化主義の制度を学びました。一番最初に授業で取り上げた判例はジョコビッチ選手が入国法違反として入国を拒否された事件でした。自分の目標に能動的に取り組むのではなく、取り組まなければいけない環境に自分を置くことが留学の利点だと思います。

あきらめなければ留学は実現できます。しかし、そのための努力を始めるのは早ければ早いほど良いです。1 人でできることは限界があるので、留学を視野にいれている授業を履修して、同じく海外に興味のある友達を作ることや説明会に参加することを勧めます。僕は 1 年生の春に留学説明会に参加して協定校留学を目指そうと思いましたが、留学基礎講座で法学部にも留学を目指している学生がいることを知れました。仮に学部生時代に実現できなくても、先に述べたように社会人になってから研修として海外勤務することができます。特に省庁に国家公務員として就職すれば、数年間海外の大学で勉強する道もあります。そして、オーストラリアの大学には多様な年代の学生が勉強していました。公衆衛生の授業で親切にしてくれた学生も、法律の授業でペアを組んでいた学生も、ルームメイトも 5 歳以上年上でした。